

連載

水の思想 土の理想

〈私説〉世紀の大事業・愛知用水

高崎 哲郎

(作家)

この木曾の水は
百年の夢をうつつに
愛知用水として
濃尾の野をうるほす
ゆくてに幸多かれ

〈愛知用水完工記念碑〉

第七回

「Bankable! (融資可能にせよ!) : 世銀借款交渉①」

「アメリカ人コンサルタント、エリック・フロアー」

国家プロジェクト・愛知用水は食糧増産を推進して、終戦後海外から多量の輸入食糧に依存していた日本の貿易収支を改善し、同時に食糧の自給率を高めることを主目的としていた。だが米軍占領下の国家予算では、ぼう大な建設費をねん出することは不可能であった。政府は、GHQ(連合国軍総司令部)経済産業関係担当幹部の助言に従って世銀(International Bank for Reconstruction and Development、国際復興開発銀行、世界銀行)からの借款事業として愛知用水を推進することにした。「そのためには国際的に信用の高い外国コンサルタントに計画設計を依頼することが不可欠である」とGHQから再度勧告された。GHQの指令はもとより、助言にも逆らうことは出来ない時代であった。(以下、『愛知用水史』、清野保『私のライフワーク』、浜島辰雄編著『愛知用水と不老会』などを参考にする)。

GHQ土木顧問として来日して福島県^{ただし}只見川上流の電源開発地点の調査を行っていたアメリカ人土木技師にエリック・フロアー(Erik Floor、1891-1958)がいた。彼は只見川上流ではロックフィル・ダム^{ただし}の建設が可能であるとの報告書

をマッカーサー元帥に提出していた。GHQはコンサルタントとして彼を農林省(当時)に推挙した。フロアーはデンマーク・コペンハーゲン生まれのアメリカ人土木技師で、本社E・F・A(Erik Floor & Associates)をシカゴに構えており、土木建設事業40年の経験をもっていた。なまりのきつい英語を話すアメリカ人社長は、GHQ首脳部に食い込み占領下日本の電源開発事業へ参入しようとしていた。

農林省技術官僚には、「コンサルタント」の概念がつかめなかった。コンサルタントとの初出会いであり、海外からの技術協力も初めての経験であった。同省農地局技術課長清野保は、GHQからの推薦はあったもののフロアーが適格か否かの判定に苦慮した。適格数社の中から選ぶべきであったかもしれないが、GHQの意向としては、コンサルタント雇用の基本方針は、ひとえにコンサルタントが信用に値するか否かであると伝えてきた。その例として、司法事件のときに依頼する弁護士や病気のときに診断を仰ぐ医師の選択は、本人の納得ずくの全幅の信頼のもとに自分の生命財産をあずけると同様であるとの説明を受けた。清野は、その信頼は主観的なものであると同時に、第三者からの客観的信頼度がなくては困ると主張し、GHQとの協議の結果、副総理林譲治からメリ



只見川調査時代のエリック・フロアー（前列左から2番目）

方の陸軍省技術本部長に宛てて、フロアーの信用保証に関する回答を求めることとなった。約1ヶ月後に回答が送られてきた。

「この会社は、陸軍技術本部の3か所の発電施設の設計に現在従事しており、彼らの過去の業績は非常に満足なものと評価する。世銀の言によれば、この会社は完全に信頼し得るものと認め、その報告書は必要あるときは追加資料を要求することもあるが、一般の見解としては総括的に受け入れられるものと考えている。輸出入銀行の言によれば、この会社は有能な会社であると認められており、この会社の作られた報告書は、如何なるものでも丁重な考慮が払われている」

農林省はこの回答を信用して雇用に踏み切った。だが水力発電の専門技術者としては有能であるかもしれないが、愛知用水計画のような農業開発を主目的とした総合開発計画の場合に果たして適切な人選であったか否か、疑問は残った。農林省はGHQの推薦でもあり、世銀借款成立のための必要・十分な報告書を作成することを条件としてエリック・フロアー社（E・F・A）と契約を結んだ。昭和28年（1953年）4月1日のことである。エリック・フロアー社は日米合弁会社P・C・I（パシフィック・コンサルタンツ・インコーポレイテッド、本社はシカゴのE・F・Aと同じビル）を設立し、この会社が日米交渉や愛知用水の設計施工に関わることになる。

「唐突な提案:牧尾橋にロックフィル・ダム」

愛知用水計画が実現の方向に大きく傾くにつれて、世銀の農業調査団が相次いで来日するようになった。（前回、一部既述）。昭和27年4月28日、対日講和条約が成立しGHQが廃止された。日本は独立し国際社会に復帰した。日本は国際金融機構に

加盟が許されることになり、その融資も受けられこととなった。同年11月6日、第1回ドール調査団（団長ラッセル・H・ドール世銀極東部長）が来日して現地視察を行った。世銀融資についても最初の折衝がなされた。同行のデ・ヴィルデ、ギルマーチンが知多半島で現地調査を行った。次いで28年5月16日、アメリカ大使館経済参事官フランク・A・ウェアリングが名古屋を訪れ愛知用水計画の説明を受けた。このとき、名古屋商工会議所はウェアリングに要望書を手渡し、「計画の早期実現にはどうしても海外の資本・技術に依存せざるを得ない」との願望を伝えた。その年12月10日には、世銀の副総裁ロバート・L・ガーナーは自ら進んで来日し、融資についての突っ込んだ折衝が行われた。さらに翌29年になると、3月に一連の陳情や要望が功を奏して、世銀の総裁ユージン・ブラックから、大蔵大臣小笠原三九郎宛てに書簡が送られてきた。

「日本経済を開発するためには、土地改良干拓事業は重視されることが必要である」とした上で、「日本の政府の要請があれば、農業開発のために調査団を日本に派遣してもいい」との前向きな内容だった。書簡には最後に「開発協力事業の究極的な目標は、人々の生活と福祉を直接的あるいは間接的に向上させることである」と記されてあった。

政府は、直ちに調査団の派遣申請の手続きと同時に、愛知用水の具体案の取りまとめに入った。

総裁の書簡を受けて、同年7月と8月の真夏に2度にわたって世銀の農業調査団が来日して、知多半島などで現地調査



フロアーの現地調査（『愛知用水史』）

を行った。農業調査団は、調査結果から判断するとコンクリート・ダムでは経済性がないと思われると指摘し、これに応じて同行の農林省が愛知用水計画の技術支援を依頼していたコンサルタントのエリック・フロアーから、「牧尾橋にロックフィル・ダムを建設したらどうか」との判断が出された。農林省では、牧尾橋ダム案は地質などに問題が多いことから放棄していた。ロックフィル・ダムの建設も手掛けたことがなかった。

エリック・フロアー社は、その後予備報告書において、愛知用水の主水源のダムサイトを農林省が提唱していた二子持^{ふたごもち}サイトから上流の牧尾橋サイトへ変更し、しかも日本で初めてのロックフィル・タイプのダムの採用を再び提案して来た。

技術課長清野保は回顧する。「農林省首脳部の心中はおだやかでなく、急遽牧尾橋ダム地点の地質・ガス発生状況などを調査するよう命じた。牧尾橋地点に関する詳細調査を29年10月から初めて30年2月まで約16本のボーリングと約600メートルの横坑を掘って調査した」

結論は変わらなかった。二子持に重力式ダムを建設する方針で進んだ。だが施主側である農林省との間での事前了承なしの提案は、世銀当局によって受け入れられることになるのである。清野は調査資料を持参して渡米し、世銀との間でダム問題を中心とする技術的討議や公団法案の審議にあたることになる。

「総選挙での敗北」

愛知用水土地改良区理事長伊藤佐^{たすく}（元農林官僚）は、水事業の本格的推進のためにも、衆議院に打って出て国政の場で運動の地歩を固めたいと考えていた。久野庄太郎、久野源蔵、浜島辰雄ら愛知用水運動に早くから関わった関係者も伊藤からの要請を受けて伊藤支援で動いた。しかしことはそう容易ではなかった。立候補を予定していた衆議院愛知二区（当時）は、現職の地盤が強固であり、自民党公認も現職最優先であった。浜島は、勝機は薄いと判断して伊藤に立候補を断念するように申し入れたが、伊藤は立候補の意志を変えなかった。やむを得ず、36歳の浜島は7周年務めた県立半田農業高校を辞職して、伊藤の筆頭秘書となり素人が「＜鉄火場＞の



愛知用水土地改良区理事長伊藤佐

選挙に飛び込んだ」（浜島）のである。昭和27年10月の総選挙では、準備不足の上、自由党公認がとれなかったことが響いて落選（次点）で終わった。「選挙は労多く、資金面でも大変な無駄遣いであった」とは浜島の述懐である。事実、久野はこの選挙戦に多額の私費を投じた結果、自ら経営する愛知農林物産株式会社の破産の遠因を作ってしまった。浜島は半田農業高校の退職金12万円をすべて失った。教職を辞した浜島は愛知用水土地改良区技師に再就職した。

翌28年4月の「バカヤロー解散」（総理大臣吉田の失言による解散）でも伊藤は未公認のまま立候補したが、またも次点で終わった。愛知用水は国政選挙の勝敗とは関係なく世銀融資事業として進んでいた。選挙戦の結果は事業の推進に影響は出なかった。「二度と選挙には関わりたくない」。浜島はそう誓った。

（29年7月、「農聖」山崎延吉が他界した。享年81）。

「政府:世銀への借款計画」

昭和29年5月、政府は農業開発、鉄鋼合理化、石炭開発、電源開発、機械設備近代化、高速自動車道路、干拓、工業港建設及び国鉄（現JR）などに対して、所要外貨2億5400万ドルに及ぶ外資導入計画を作成し、世界復興開発銀行（世銀）に申請した。愛知用水事業については、所要資金294億5600万円のうち輸入機械などに充てる外貨1405万5000ドル（約50億6000万円）であった。

農林省首脳部には、当時の食糧事情からみて、予算拡大を期待されていたにもかかわらず予算獲得がおもわしくなかつ

第七回「Bankable! (融資可能にせよ!) : 世銀借款交渉①」

たので、外資導入によって一挙に改善を図ろうとの狙いがあった。外資導入によって事業量の拡大を図ろうと考えたのである。外資導入の性質もインパクトローン（使用を制限されない外貨借入れ、アンタイト・ローンとも言う）として事業費の大部分を外資によってまかなうとの方針であった。

29年は日本の政局が揺れた年である。首相吉田茂の自由党に対抗して、新党を結成しようとする鳩山一郎などの動きが活発になってきて、新党促進協議会が全国遊説などを行っていた。そのころ首相吉田茂は外遊の計画をもち準備を進めていた。ちょうどその時打診を行っていた世銀の調査団が来日したので、政府は愛知用水計画を説明し理解を求めた。29年8月3日の信濃毎日新聞は報じている。

「この席で世銀の一行は、技術一般、水量と放水、水質の関係、築堤の規模、取水口の水量、水路の幹線と支線の水量などについて、矢のような質問を浴びせ、農林省当局者をたじたじさせる一幕もあった」

銀行として「Bankable (融資可能か)」どうか、探りを入れたのである。愛知用水の建設資金の大部分は借金であった。世銀から借り入れるのは全体の約10%でわずかと言えるが、残りの大部分はアメリカからの余剰農産物見返り資金に頼っている。これも金利が4分で4年据置き20年償還の借金である。事業が予定通り進行しない場合には余分の利子を払わなければならない。余剰農産物見返り円資金とは、アメリカの農産物貿易促進援助法（1954年）に基づき、アメリカが小麦、大麦、トウモロコシ、綿花などの余剰農産物を輸出するため各国との間で結ばれた協定である。日本は30年に第一次協定（総額8500万ドル）、翌年に第二次協定（総額6580万ドル）を締結した。代金の一部は共同防衛のための軍事費に当て、残額は日本への借款として供与された。32年以降は、日本は余剰農産物の輸入を行っていない。

29年12月7日、吉田内閣から鳩山内閣に移り、農林大臣は河野一郎（1898—1965）が就任した。「党人派」の剛腕で知られた河野は、3次に渡る鳩山内閣で終始農林大臣を務め、30年10月の愛知用水公団の設立から愛知用水事業の着工と完成までかかわった農林大臣であった。

「農林技師清野保、アメリカに飛ぶ」

農林省は昭和30年3月8日、世銀農業調査団報告書および副総裁ガーナーの覚書（交渉開始のメモランダム）に基づき、農地局技術課長清野保をアメリカへ派遣した。彼は英会話に堪能だった。大役を仰せつかった清野は仙台・伊達藩土の子孫で、昭和5年、東京帝大農学部卒。農林省入省後、愛知県、熊本県、山口県を経て、14年、農林省へ復帰した。戦後、鳥取県農地部長、農林省開墾課長、技術課長、建設部長を歴任する。36年、愛知用水公団理事、次いで43年、副理事長に就任する。

清野派遣の目的は、①世銀提案の牧尾橋ロックフィル・ダム建設に問題があり、農林省原案の二子持コンクリート・ダムの建設を主張すること、②公社法案に関する農地局の見解を伝え協議することなどであった。清野の滞米は5月7日までの長期間に及んだ。P・C・I技師長河野康雄が同行した。土堰堤（アースダム）の専門家である農地局設計課技官中村武夫は技術問題に関して協力するため、アメリカへの出張の途中一行に加わった。

一連の交渉は難航した。清野が滞米中、農林省と交換した電信、電話、文書及び日本大使館から日本政府に対して発した公電が3月15日から4月29日の46日間において、前者の場合29回、後者の場合10回で合計実に39回にわたった事実からも知ることが出来る。日本大使館や領事館から毎日のよ



農林省技術課長清野保(村田家提供)

うに電信(極秘)を送受信していた。

アメリカでは、渡辺武公使(大蔵省出身)、日本大使館官房長関守三郎、日本大使館書記官上田克郎、同中島清明の援助なども交渉を進める上において大きな役割を果たした。

清野の一行は空路サンフランシスコ経由でシカゴ・オヘア国際空港に着いた。3月とはいえ真冬並みの寒さだった。

「群がるアメリカ商社マン達」

世銀借款の予備交渉のため渡米したときの清野らは、アメリカの商社マンと機械メーカーのセールスマンに付きまといわれた。それは異様な光景であった。シカゴのオヘア国際空港へ着いたとき、早くもロビーで商社マンに取り囲まれた。清野はジャーナリスト達かと思ったが、そうではなかった。ロビーで待っていたE・F・A社長フロアーは、「清野は疲れているから、邪魔をするな」と激怒して、清野を取り囲む商社マン達を排除した。「私の行動に関する情報はどこから商社マンに漏れているのだろうか」。ホテルに入った清野は不安になった。別のエピソードを、『私のライフワーク』(清野保)から引用する。それはワシントンでの世銀借款交渉の際の機械発注にまつわる「秘話」である。

「ワシントン滞在中のことである。ある機械メーカーのセールスマンが私に面会を申し込んできた。暇がないと称して断ると、彼はそれでは朝食をホテルで付き合っただけで欲しいと言ってきたので、コーヒー・ショップの朝食なら一緒にとっても良いと一応OKした。彼はその際『お前は、今度帰国すれば公団のディレクター(理事)になるだろう。そうしたら機械の発注についても責任者になれるだろう』と言って、次に『俺の提案をどう思うか』と言った。その提案というのは『公団が機械を発注するときは商社を通さずに、直接メーカーと取引してはどうか。そうすれば商社に支払う手数料の3%は無駄に出さずに済むことになる。そこで、相談だが、この3%分を君と俺とで折半すれば15万ドルは君のものになる。どうだ、君は政治的野心はないのか、俺の知っている日本の政治家で、このような方法で政治資金を作って、現在でも日本の有数の政治家になった者が知っているが、君はどうだ』と。

そこで私は、『そんな金をもらっても、日本へ持って帰れぬ』と言うと『そんなことは簡単だ。俺が君に代わってアメリカの銀行へ預金するようにしてやる。君は必要な時に、その金を引き出せばよい。万事、俺が巧くやってやる』という話があった。そして私は『ディレクターになると決まったわけでもないし、第一、機械発注は日本の場合、世界競争入札になるはずだから、君の言うようにはならない』と答えて別れてしまったことがある」

清野は不愉快極まりなかった。そこには企業倫理のかけらもなかった。彼は資本主義大国の<暗部>を身をもって知ったのである。

「シカゴ会議、ダムサイトをめぐる応酬」

シカゴ会議が、アメリカ第二の都市のダウンタウンにあるP・C・I本社(E・F・A本社でもある)で開かれた。(地元紙シカゴ・トリビューンの広告欄によると、Erik Floor & Associates: at 139 N. Clark Street とある)。

P・C・Iは予備設計報告書(29年8月)、報告書(同年11月)、さらに追加報告書(30年4月)を農林省の了解のもとに世銀に提出していた。社長フロアー、副社長ルービンス(Ralph E. Rubins)、P・C・I法律顧問ジルー(Carl H. Giroux)は、29年度後半から30年度初めにかけて、数回にわたって世銀と技術的な問題に関する打ち合わせを行ってきた。ガツンとした体躯のフロアーは、清野との討議の冒頭、「非公式ではあるが」と断ったうえで、世銀のダム地点とダム形式に関する基本的意向を明らかにした。その要点は、

- 1、ダム建設地点を二子持地点から牧尾橋地点へ変更することによって約1000万ドルの節約が可能であり、これが実現されなければ、計画は経済的に健全ではない。
- 2、日本のような地質条件が悪く、貯水容量の少ない地点にコンクリート・ダムを建設することは、水資源の開発の上から不経済であり、好ましいことではなく、世銀ではP・C・Iの提唱するようなロックフィル・ダムが、今後日本で採用されるダム・タイプとして考慮を払うべきで、愛知用水の水源としてだけでなく、日本の水資源開発という立場からも牧尾橋ロックフィル・ダムの建設を勧告したい。

第七回「Bankable! (融資可能にせよ!) : 世銀借款交渉①」

これに対し、技術課長清野と農林技官中村武夫は農林省の現地調査に基づき牧尾橋地点における地質上の問題点を改めて指摘し、フロアーの見解を求めた。その骨子は、

- 1、牧尾橋ダム付近から噴出するガスの化学分析については、名古屋工業技術試験所、京都大学教授近藤康夫、農林省農業技術研究所化学部に依頼した調査結果によると、いずれにあっても、その中の硫化水素は微量で、炭酸ガスが90%を占めていた。これは長時間にはコンクリートに被害を与え、これを防ぐためシリカセメント(混合セメント)を使用するとしても、これらの処理に全く経験のない日本技術陣としては保安上重大な問題がある。従って牧尾橋はダム地点としては適当であるとは考えられない。
- 2、地質については、土木地質学者広田孝一、高田昭らの意見は次の通りである。
 - ①断層が多数存在し、深部はガス及び鉱泉によっておかさされているため、漏水を完全に防止することは困難で、グラウト(漏水防止乳液)による耐久性についても不安定である。
 - ②ガス対策上、この地点にコンクリート・フェーシング型式のロックフィル・ダムを建設することには不賛成である。
 - ③地質的に予測しがたい不確定要素の多いところであるから、地質学者として本地点におけるダム建設に確信を持つことが出来ない。

- 3、P・C・Iは牧尾橋地点の基盤を7メートルから8メートルの掘削深によって岩盤に達するものと推定し、これに基づき、コンクリート・フェーシング型式のロックフィル・ダムを予備設計において採用したが、ボーリングの結果によると、河床から20メートルから25メートルの深さに岩盤が存在することがわかった。この岩盤上にある堆積土砂の処理をどのように考えるかに問題がある。
- 4、牧尾橋地点から4メートルから5メートルの範囲に、火山灰性の砂質ロームが多量に存在すると思われるので、これをコア(中核部)材料として使用した場合、80メートル以上の盛土の設計断面をどのように決めるか、また急速な施工方法を採用するときの締固め方法については、特に雨量の多い現場の特殊事情を考慮するとき、最適含水比など技術上困難な問題があるのではないか。
- 5、ダムを支える副堤(副ダム)の位置は和田鞍部の旧河道に当たり、その基盤は最深部では地表から約120メートルに及ぶ。基盤に見られる堆積物は砂・砂礫・砂質粘土、特に下部の大部分は砂層からなるためかなりの透水性の地層をなし、それゆえ貯水後の漏水、パイピングの危険がある。特に旧河道の両岸とこの堆積層との境は、崖錐であると予想されるので、この部分には多くの空隙があると考えられ、透水が大きな問題である。

「フロアーの反論」

フロアーは大きな顔を赤らめて反論した。

- 1、牧尾橋地点の地質は良好とはいえないが、現在までの調査資料から不可能と断定できない。農林省の行ったボーリングの資料の中に示された破碎帯はその幅及び方向が確認されていないし、また、このような破碎帯は下に行くに従って狭くなる傾向をもっている。左右両岸の岩質の異なる点から予想される断層線をニッケル(フロアーの雇ったアメリカの土木地質の専門家)は確認していないし、我々はこのような地質不良の地盤の基礎処理を行って、成功した多くの実例を経験していて、技術的に可能であると考えられる。またダムからの漏水はグラウトによって止めることが

Immediate opening for an energetic person who has 2-3 years technical or engineering schooling and at least 2 years of drafting experience. Job consists of sketching electrical and mechanical parts for manufacturer or purchase. Good starting salary and excellent growth potential and fringe benefits.

Lindberg Hevi-Duty
2450 W. HUBBARD
(Across the Street from the Milwaukee Road-Western-av. Depot).
666-3443
An Equal Opportunity Employer

DESIGNER
TRAILER DESIGN
Looking for an opportunity to prove your ability?
We are seeking a young designer that can follow a project from the start to finish. Your duties will include specification writing, design and drafting. To qualify, we require a high school

DESIGNER
ELECTRICAL
Conduit layout for lighting and power. Work on physical drawings. Squad leader capability.

MECHANICAL
Draftsman on Heating, Ventilating and Air-Conditioning.
Consulting firm engaged in design of hydroelectric power plants requires experienced men. Salary commensurate with experience. Liberal benefits.

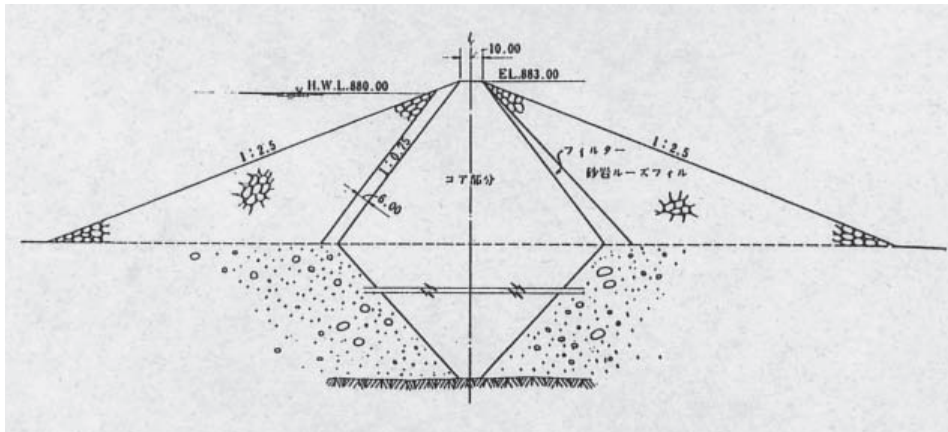
ERIK FLOOR & ASSOCS.
400 W. MADISON, Rm. 1781
AN Equal Opportunity Employer
**DESIGNERS
ENGINEERS
DRAFTSMEN**

Need good all around men for check-out, production liaison, and design work on electro-mechanical mechanisms.
Company benefits include profit sharing, hospitalization plan, tuition refund program, paid holidays, free long term disability insurance, birthday off with pay, and the opportunity to advance with a growing company.

MICROWAVE CAVITY LABS
10 N. Beach-av. LaGrange
354-4350

DESIGNER PRODUCT
Nation's leading store fixture manufacturer is looking for a designer with 5 years industrial design experience, preferably in sheet metal products. Work with customer, sales, engineering and production department. Must be able to make presentation drawings, handle manufacturing, and in mind. Good wages and excellent paid company benefits. Apply seeking:
REFLECTOR HARDWARE CORP.
1400 N. 25th-av. Melrose Park

エリック・フロアー社の広告(シカゴ・トリビューン紙)



ロックフィルダム案(断面)

出来る。ただし問題はグラウトによる経費の増加である。

2、日本政府は、牧尾橋地点が地質的にダム建設上不良な地点であるので、二子持に、従来からの建設の経験もあり、自信もあるコンクリート・ダムを建設したい意向であるが、世銀は経済的見地から賛成しない。

3、牧尾橋地点におけるロックフィル・ダムの設計について、コンクリート・フェーシング型式を採りあげ、コア型式を避けたのは、コアに使用する材料が付近に少ないと推定されたためである。しかし、実施設計では、ダム建設地点付近の材料を調査し、この材料を使用できるよう設計を行う。また、今回新しく提出された和田地点の粒度分析試験の曲線から、一部の土壌はコア材料として適当であり、もし土の重量が軽い場合は砂礫を混入して適当な粒度と重量を与えることが可能である。

「農林省の決断」

意見交換の結果、結論に達した。「標高880メートルを最高水位とする牧尾橋及び二子持のロックフィル・ダム案を作成し、その経済性を比較することとする」

フローアはすでに結論は出ているとの口調であった。最後に『Bankable (融資可能に)』を心がけてください」と語りかけた。清野には忘れられない言葉となった。彼はシカゴ中心部にある日本領事館から農地局長渡部良へ極秘電を打った。

「コンクリート・ダムでは世銀に否定される恐れがあることから、二子持のロックフィル・ダムが技術的に可能と思われるので、フローアと意見をまとめて世銀と交渉したい」、「材料の精査を条件として、二子持のロックフィル・ダムはオープン・カットの中央コア型式に中村と意見が一致したので、世銀と交渉し

てはどうかと考える」

次の日に農林省から返電(至急電)が日本領事館に入った。「二子持の地質、土性、コア、材料の運搬距離、ロックフィル・ダムの場合の漏水による住民の不安、河川管理などの諸条件から、当方における目下の検討の結果では賛成できぬ」。農林省首脳部は二子持ロックフィル・ダムを否定したが、その後態度を和らげてきた。「二子持ロックフィル・ダムの経済性を証明する材料がないまま、交渉することは無意味であり、ロックフィル・ダムの場合粘土を藪原(木曾郡木祖村)から採取し、コアは岩盤までとしコンクリート・重力ダムに比べて余り有利となる見込みがないため、コンクリート・重力ダムで交渉されたいが、そちらで試算し、有利となるなら、その前提条件などを承知したい」

清野は農林省へ提案の電文を打った。「世銀は牧尾橋案で了承しているので、牧尾橋ロックフィル・ダムの最高水位880メートルで一応、借款交渉を成立させ、ダム建設地点及び型式については、実施にあたって決定してはどうだろうか」

これに対しては、農林省は牧尾橋地点案を拒否しながらも、4月1日に予定される世銀との交渉の基本線を示してきた。「借款成立後、詳細調査の結果、二子持880メートルのロックフィル・ダムまたはコンクリート・ダムのいずれかに変更することの条件付きで、牧尾橋880メートルダム案により借款を成立させることが可能であるか、返事待つ」

この首脳部の判断を受けて、清野は首都ワシントンの世銀本社で世銀と予備交渉に臨むことになった。(ちなみに日本が敗戦後世界銀行からの借入金によって実施した公共事業は31件、総額8億ドルに上り、世銀から最も多く借款した国の代表格だった。)

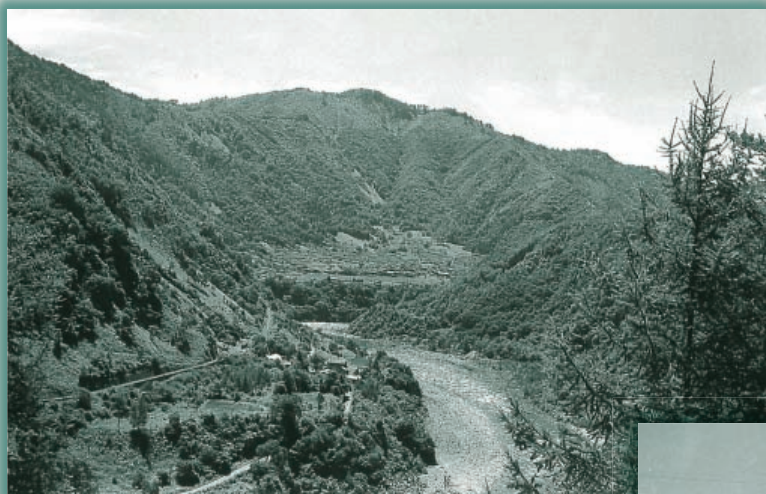
(つづく)

愛知用水通水50周年に向けて

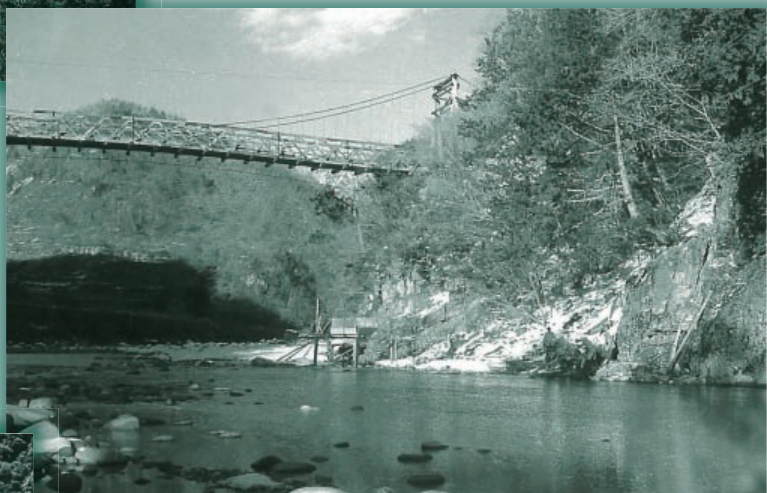
愛知用水アルバム

～愛知用水の水源となるダム建設～

愛知用水の水源として王滝川に計画されたダム建設
その計画は王滝村と三岳村（現木曾町）の一部が水没するものでした
両村住民のご協力がなければ、愛知用水の完成はありませんでした



ダム建設が計画された渓谷
(二子持地点(左)と牧尾橋地点(右))



先祖伝来の土地を守るため、ダム建設
反対を訴える看板
(二子持地点)



牧尾橋地点で実施されるボーリング調査